

1 特色ある教育活動等

脈打つ「自律」の精神

本校初代校長小谷巨三郎先生は、開校から15日目、全校生徒に対し、「今こそ高いものを求め、立派な学校を創り出そう。将来の西高に学ぶ後輩が創立当時の先輩に感謝するよう、決して非難されない輝かしい先輩にならない」と力説された。また、当時の文化部長は、「よき伝統よき校風をつくることは西高生の念願であると同時に責任でなければならない。我々はここに創立1周年を迎えて創業の重責を感じるとともに『我等出でずんば西高の創業成るはいつの日ぞ』の意気を持って理念の達成に邁進すべきである」と述べた。実に格調高く、西高の校風は生徒自らの手で、立派なものに創りあげていくのだという気魄がうかがわれる。

このような「新しいものを創り出そう、皆で誇りある西高を築きあげていこう」という気風が一層強くなり、自らを自らの意志で律する「自律」の精神が西高の校風として根付いていった。この建学以来の校風「自律」は、遂に創立30周年に、校訓として制定された。爾来、本校の全ての教育活動はこの「自律」の精神（自らの意志によって行動を律する力）に基づいて行われている。

これからの時代は、潤沢な自然に恵まれて育った人間がリーダーになると言われている。まさしく、この西高生の中から日本をリードする人材が育っていくのだろうと確信している。多くの「眉秀でたる若人」が明るく生き生きとした高校生活を送っている。

1. 自律育成を目指して

(1) さまざまな楽しい行事

① 歓迎遠足

4月下旬、いつも本校を見守るかのようにそびえる緑濃き稲佐山を目指して登る。到着後、生徒会による対面式、上級生の温かな歓迎の言葉に、新入生は新たな決意の言葉で答える。吹奏楽部の演奏や音楽部の合奏が終わると、新任の先生方の自己紹介と生徒会が企画した趣向を凝らした催し。昼休みは、クラスで企画した活動を行い、クラスの親睦を図る。

② 全校応援

県高総体男女バスケット決勝リーグや冬のウィンターカップ、野球部の夏の甲子園予選の試合は、全校応援を実施する。県高総体へ向けて、2週間前から放課後に文化部の生徒を中心に応援練習を行う。体育部の代表や生徒会の役員による指導・指揮のもと行われる練習は、厳しいながらも笑いがあり、学校全体の雰囲気の本番に向けて一気に高めてくれる。

会場が西高生の歓喜で包まれ、校歌「眉秀でたる若人よ」がこだまし、西高がひとつになる応援を行いたい。

③ 西高祭

3月中旬の実施。文化部および同好会が、1年間の活動の成果を発表するほか、各クラスの催しなど、学校全体が一体となって盛り上がる。

④ 運動会

この名称は創立以来のもので、内容的にも他校に例のない独特の伝統を受け継いでいる。2年生の「西高パレード」は各班のテーマに沿った山車を作り、華やかに繰り広げられる。また先生が「もしも教師でなかったら…」という発想に基づく、3年生による「もし教」は、ユニークなアイデアとユーモラスな演技で本校の伝統の1つで人気が高い。

本校の運動会は生徒だけでなく、保護者や地域の皆さんをも巻き込んだ一大イベントとなっている。

⑤ 西高イルミネーション

イルミネーション点灯は、3年生の大学入学共通テスト、その時期の入学試験、冬季の部活動上位大会での健闘を祈ることを目的としている。冬の寒く暗い夜道に彩られたイルミネーションは、生徒一人ひとりを明るく照らし、明日への活力を抱いてもらいたいという願いも込められている。



(2) 自律を育成する行事

① 新入生指導

中学4年生ではなく、西高1年生として必要な基本的生活、品位ある生活態度を身につけるため、集団行動、学習の要領の習得、学習習慣の定着、自律と規律を理解し行動する事を目的として入学後すぐに行っている。

② 夏季特別講座

3年生を対象に夏季休業中に行われている。入試本番に向け、生徒自身が進路志望に即した講座や演習を選択し、受講している。講座は教科ごとに毎年工夫を凝らしたものが複数準備される。

③ 進路集会

各学年において、生徒が能動的に自己の進路について考える集会を数多く計画している。特に3年次では、大学入学共通テストに向けて、100日前・50日前の節目となる日に集会をそれぞれ実施し、各自の目標を再確認することで、自らを鼓舞し、試験本番までに残された日々でより充実した学習が行えるようにしている。

④ オーストラリア研修旅行

「本物」あるいは「最先端」にふれ、自己実現に向けて前向きに取り組む姿勢を養う目的で実施されている。1年生時に希望者を募集して、定員60名の参加者を抽選で決定し、2年生の夏季休業中に7泊8日で実施している。現地の学校での語学研修や様々な活動を経験し、生徒の家に5泊ホームステイをして交流を深めている。

⑤ 修学旅行

西高生は将来の日本をリードし、世界を視野に入れて仕事をする人材である。また、長崎という地で学ぶ者として、平和を希求する気持ちを世界に広げて欲しい人材でもある。そのため、最も多感な高校時代に外国を訪問し、同世代の外国の高校生と英語で交流することで国際的な見識を高めるとともに、平和について再考する絶好の機会となるという観点から、平成26年度からベトナムへの修学旅行を実施している。ベトナムへの修学旅行は本県公立高校としては初となるものであり、全国的にもまだ少数という中での実施であったが、生徒たちは成長著しいベトナムの国の活気や、ベトナムの高校生の学習意欲、英語を話す能力の高さに触れ、大いに触発されている。また、ベトナム戦争の遺物を展示する博物館を訪問することで、改めて戦争の悲惨さや平和の尊さについて考えを深める機会を持つことができ、意義のある修学旅行となっている。平成29年度から行き先をホーチミンからハノイへと変更したことでまた新たな発見があり、充実した内容となっている。



(3) 自律を体現する取り組み

① 自律清掃

6校時終了後、音楽が流れる3分間で持ち場まで素早く移動し、12分間集中して掃除に取り組む。各掃除区域担当の生徒が掃除監督者のもと自主的に工夫して掃除を行うようにし、掃除の心構えの確認、マニュアル化、美化委員による清掃指導などを行っていく中で、自主的に清掃活動に取り組むという西高の良き伝統を構築することを目標にしている。

② 無言集合・整列・解散

体育委員会で「決められた場所には、静かに集合する」という目標が定められ、取り組んでいる。体育委員長による全体指導、クラスの体育委員によるクラスの整列、無言での解散を実施している。

③ 爽やかな挨拶

普段の高校生活では明るく自然な挨拶を心掛けている。この際、相手に伝わる挨拶とはどのようなものなのかを「相手を正視し、声を出して挨拶をすること」を原則として、生徒自身が状況に応じて考え実行するようにしている。

④ 西高生のスマートフォン等の使用マナー4原則

令和5年度より、スマートフォンなどの校内持込については許可制度となった。この許可制度の開始に合わせて、令和4年度に生徒会を中心に協議を重ね、西高生のスマートフォンなどの使用に関して次の4項目を決定した。

- に 西高内での使用禁止を守ろう！
 - し 使用は、緊急時の連絡や下校時の連絡のみとしよう！
 - こ 公共交通機関利用の際や歩行中は、スマートフォン等を使用しないようにしよう！
 - う うまく活用するために制限時間を守ろう！
- ※マナーを守るとは、自分と友達を守ること。とっても大切なことです。

2. 理系コースの充実をととして

進路の意識が明確な生徒の夢を叶えるため、本校では理系コースを設定している。理系コースでは「パイオニア精神を持って科学技術の基礎研究等に貢献できる人材の育成」を目指している。特に、SSH事業における科学研究、科学クラブでの活動、大学公開講座への参加、企業訪問、外部講師による講話、数学オリンピックへの挑戦など、各自のテーマでの課題研究に取り組んでいる。



3. 世界平和を祈って

昭和20年8月9日11時2分、長崎に原子爆弾が投下された。本校は爆心地の南西約800mの所にあり、当時、旧制長崎県立瓊浦中学校があり、多くの生徒と教職員が亡くなられた。世界平和を築く人材を育てることは本校の責務であると考え、平和教育を重視している。毎年この日を忘れないために、市内に点在する被爆遺構や原爆資料館を訪れ、あの日に思いを馳せる。そして感じたものを詩、短歌、俳句、50字メッセージなどに表し、原爆死没者の御霊にささげる。長崎の子は、幼い頃から充実した平和教育を受けているが、思春期に改めて心静かに「あの時、自分がここにいたら」と思いを巡らせることは、とても意義があると考えている。



4. スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業

平成17年度から指定されている本校SSH事業は、今年度は第5期の1年目となり、SSHの指定が始まって21年目に突入します。

（1）事業題目

「課題研究型理科融合科目『科学探究基礎』の開発と、その普及による科学技術人材育成法の研究」

（2）目的

「理科4分野の内容を研究フィールドとして示し、課題研究の手順を習得する科目『科学探究基礎』の研究開発を更に進め、理科4分野の基本的な内容を理解した上で、自然の事物・現象についての理解の糸口を示すとともに、生徒自身が設定した研究テーマに関して情報を収集して課題研究と結果発表を実践させることで、思考力、判断力、表現力を習得させ、物事を科学的に探究する力を育成する」

「全教科職員が連携して指導に当たる体制の確立と、全生徒が独自のテーマで課題研究を進めることで、文理横断的（学際的）創造力を有する科学技術人材を育成する」

「全教科・科目の現行のカリキュラムにおいて探究型授業を取り入れ、生徒の現代における課題を見極める力・課題を解決する力を養成する」

「英語で情報を収集・発信・議論する日常を実現する教育環境を構築することで、世界で活躍できるサイエンスリーダーを育成する」

* 詳細は、長崎西高校SSHホームページ nagasaki-w-ssh.sakura.ne.jp/nishi/ をご覧ください。